

7月豪雨災害に係る 住民アンケート結果

日時:平成31年2月20日(水)14:30～
場所:愛媛県庁 災害対策室

住民アンケートの実施概要

■ 調査方法
郵送調査

■ 調査期間
平成30年12月18日～平成30年12月28日

■ 設問数
12問

■ 配布数及び回収数

市町名	配布	回収
今治市	75件	40件
八幡浜市	164件	104件
大洲市	557件	300件
松野町	201件	99件
鬼北町	51件	27件
合計	1,048件	570件

■ 調査対象者
罹災証明発行世帯

※参考で掲載している宇和島市、西予市が行ったアンケートの調査対象者は以下の通り

○宇和島市

- ・宇和島市内の罹災証明発行世帯の全数
- ・自主防災組織代表者及び自治会長の全数
- ・市民から校区別に無作為抽出した世帯
【回収率 53.1%(2,122名/4,000名)】

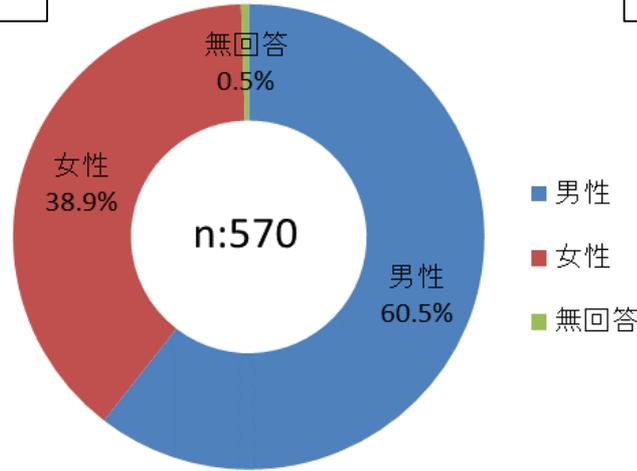
○西予市

- ・平成30年11月現在で西予市に在住の市民（無作為抽出）
【回収率 38.3%(1,067名/2,785名)】

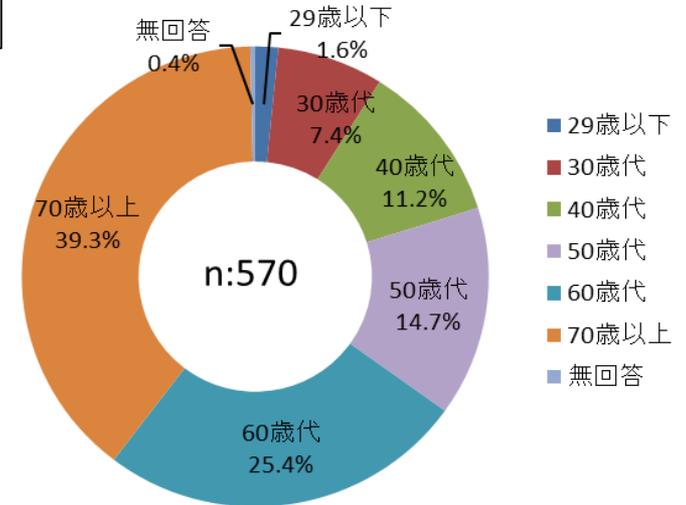
（回収率 54.4%）

アンケート結果<回答者の属性分布①>

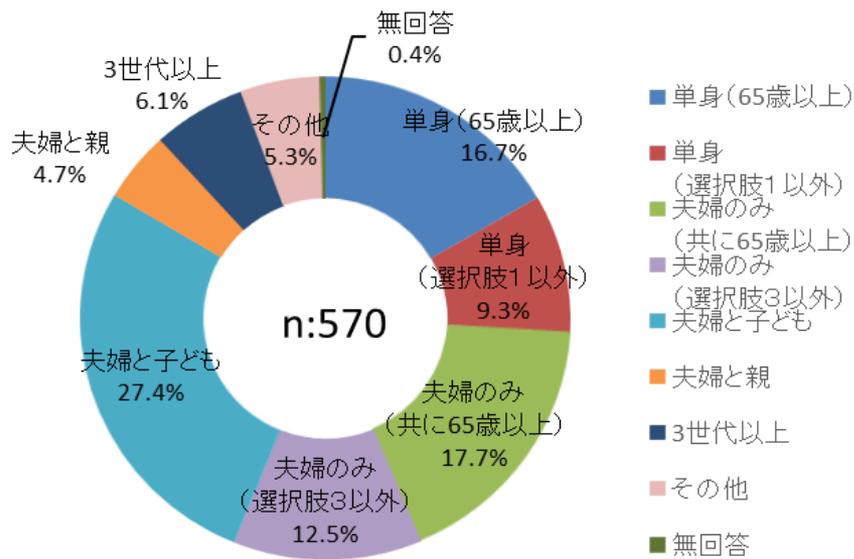
問1 性別



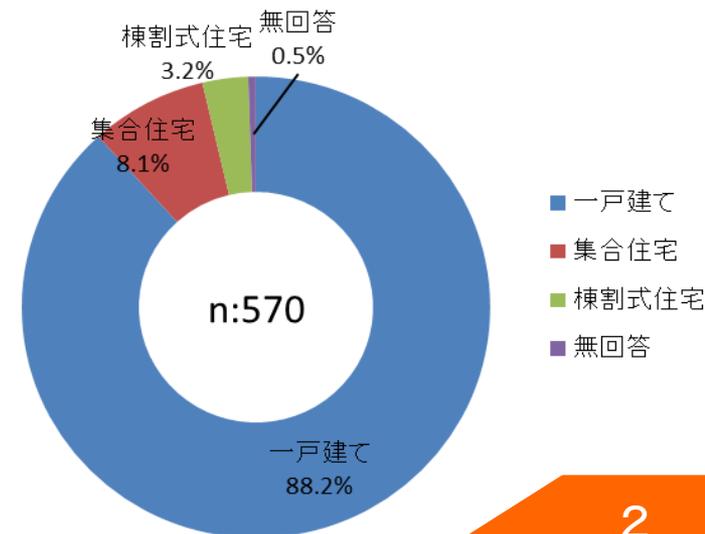
問2 年齢



問3 世帯構成



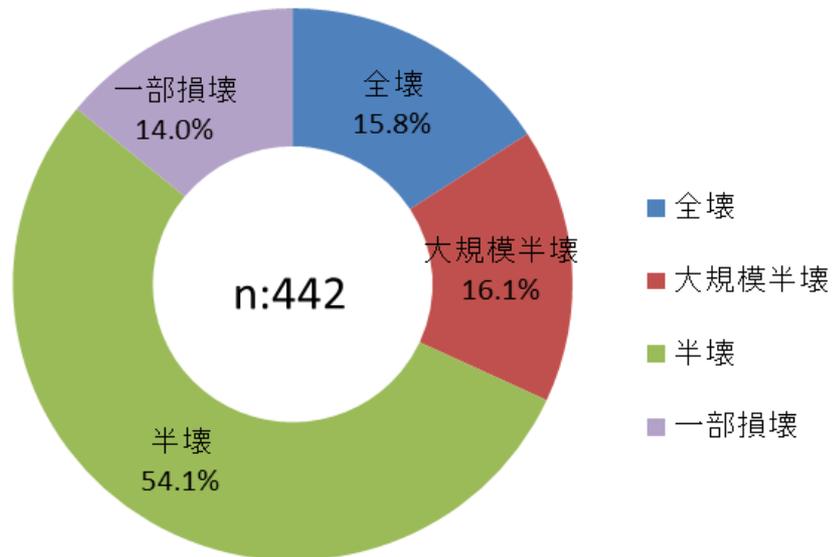
問5 自宅の構造



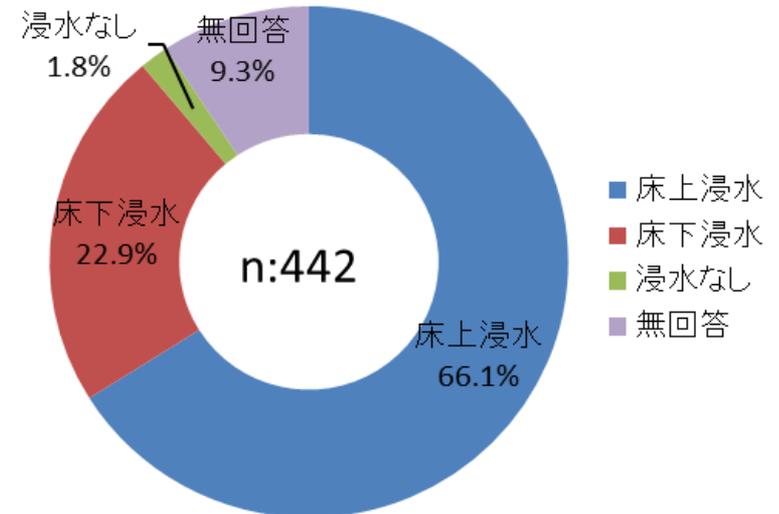
アンケート結果<回答者の属性分布②>

問6 自宅の被害分類と浸水状況

【被害分類】

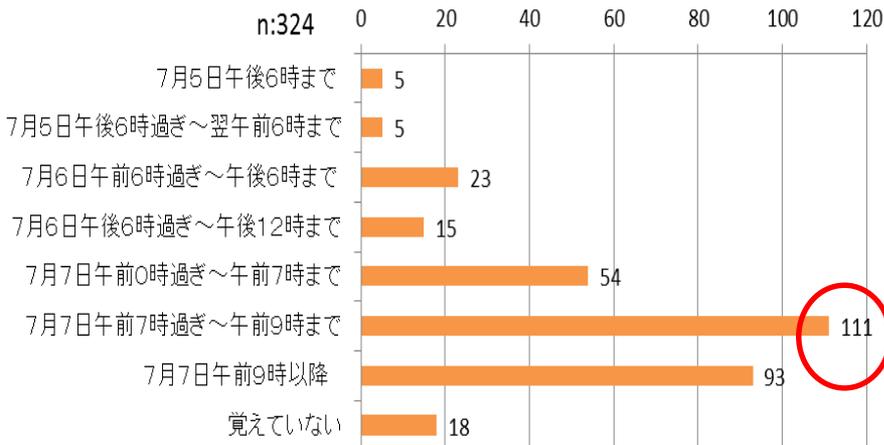


【浸水状況】



アンケート結果＜避難を開始した日時、理由＞

問7 最初に避難を始めた時刻



■最初に避難を開始したのは「7月7日午前7時～午前9時」が1番多く、避難を開始した理由としては「自宅の周辺が浸水したり、土砂が流れたりしていたから」が最も多い。

➤朝になってから、自宅周辺の状況の変化に気づき避難した方が多いことが伺える。

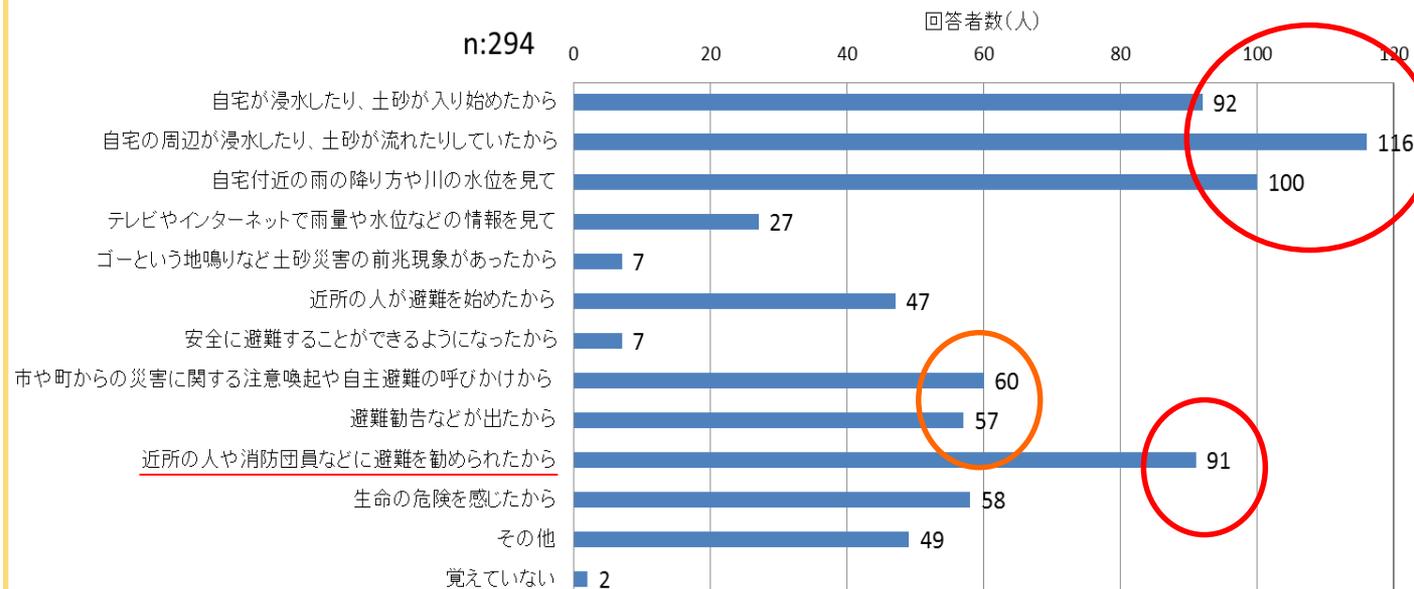
■避難を始めた理由として、近所の人や消防団員などに避難を進められたからという意見も多い。

➤こうした身近な人からの呼びかけが避難の際に効果的であったと考えられる。

■市町からの自主避難の呼びかけや避難勧告などと答えた方も多い。

➤市町からの避難の呼びかけもや避難勧告等も一定の効果あげている。

問8 避難を始めたきっかけ



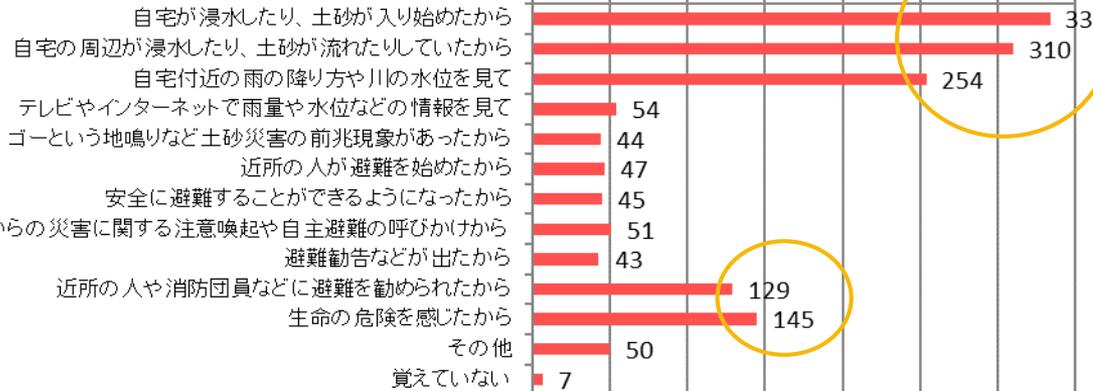
アンケート結果＜避難を開始した理由＞

(参考)宇和島市

(参考)西予市

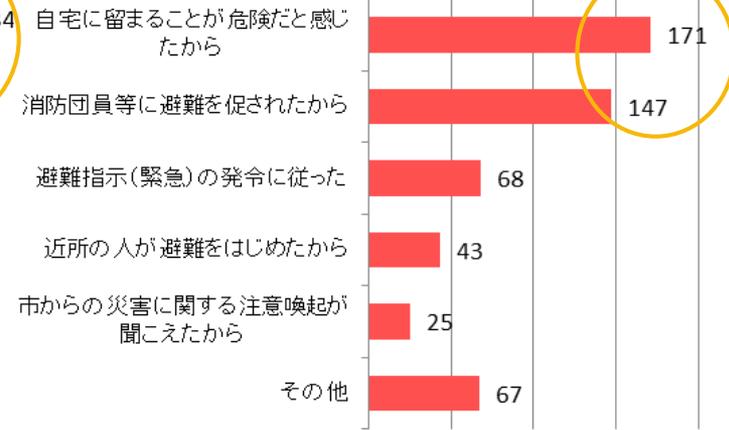
n:699

0 50 100 150 200 250 300 350



n:336

0 50 100 150 200

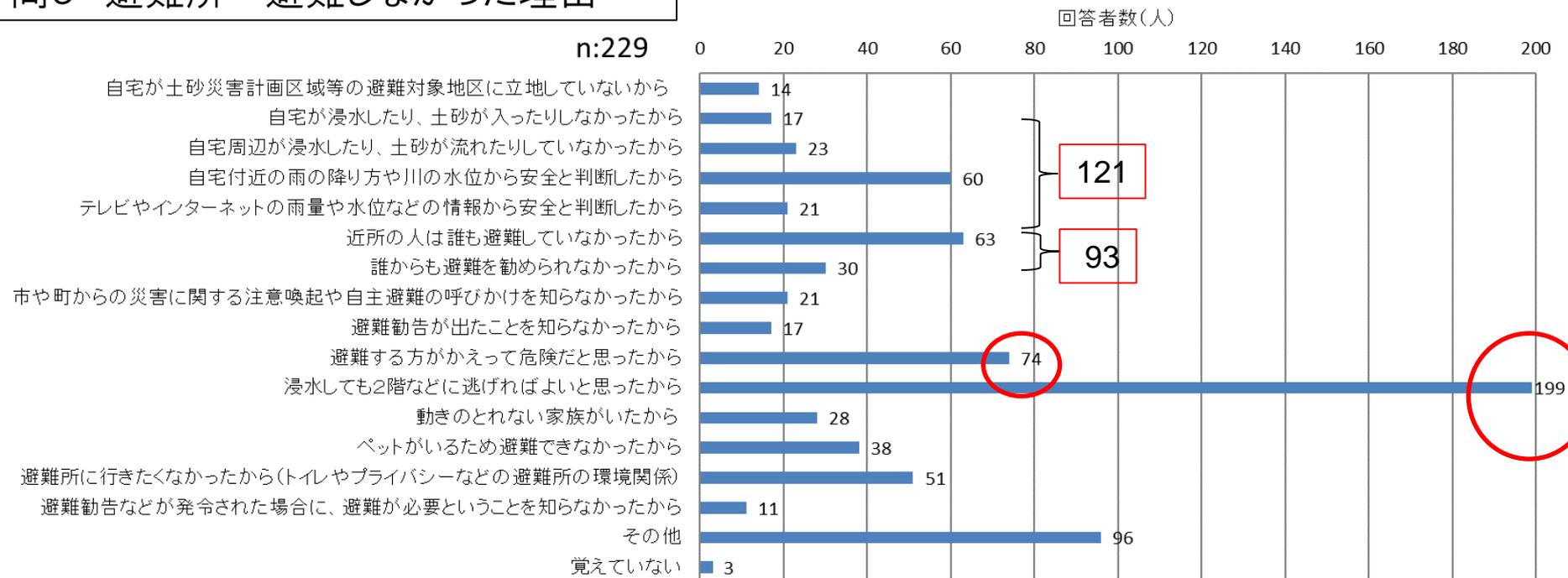


【市町毎の住民からの自由意見(抜粋)】

市町名	意見
今治市	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の方が避難所へ連れて行ってくれた。 ・民生委員から避難を進められたから。
八幡浜市	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害を目にしたから。 ・警察官からの指示。
大洲市	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関先まで水が来たから。 ・親戚に避難するように言われたから。 ・避難指示が出たから。
松野町	<ul style="list-style-type: none"> ・川の水が家の方の道路に流れ始めたから。
鬼北町	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人や消防団員が様子を見に来てくれた。皆が心配してくれたので心強かった。

アンケート結果＜避難を行わなかった理由＞

問9 避難所へ避難しなかった理由



■「自宅の2階以上にいれば大丈夫」という理由が最も多い。次いで「避難する方がかえって危険だと感じたから」という理由が多くなっている。

➢ここまでの被害になることを想定していなかった方が多く、これまで水害等の被害が少なかったこともあり、水害等への危機意識が低かったことが伺える。

➢発生時刻や雨の降り方などから避難することをリスクと考えた人が多かったと推測できる。

■「自宅周辺に危険がないと判断した」という理由や「近所の人や誰も避難していない」「避難を勧められなかったから」という理由も多くなっている。

➢自宅周辺に危険が迫っていないと避難しない傾向が伺える。

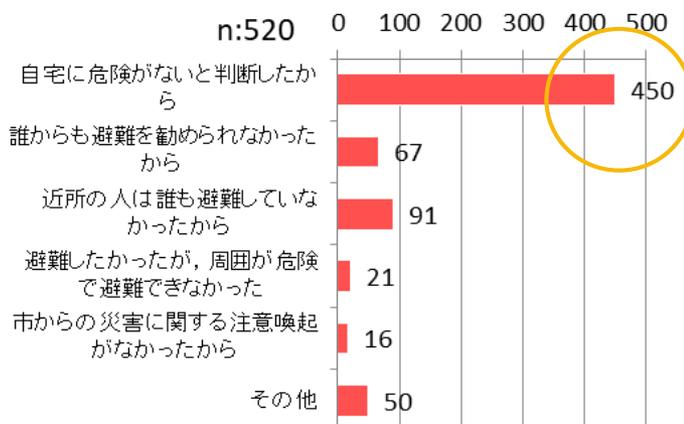
➢地域の住民の避難行動や呼びかけが、避難のきっかけになると考えられる。

アンケート結果＜避難を行わなかった理由＞

(参考)宇和島市



(参考)西予市

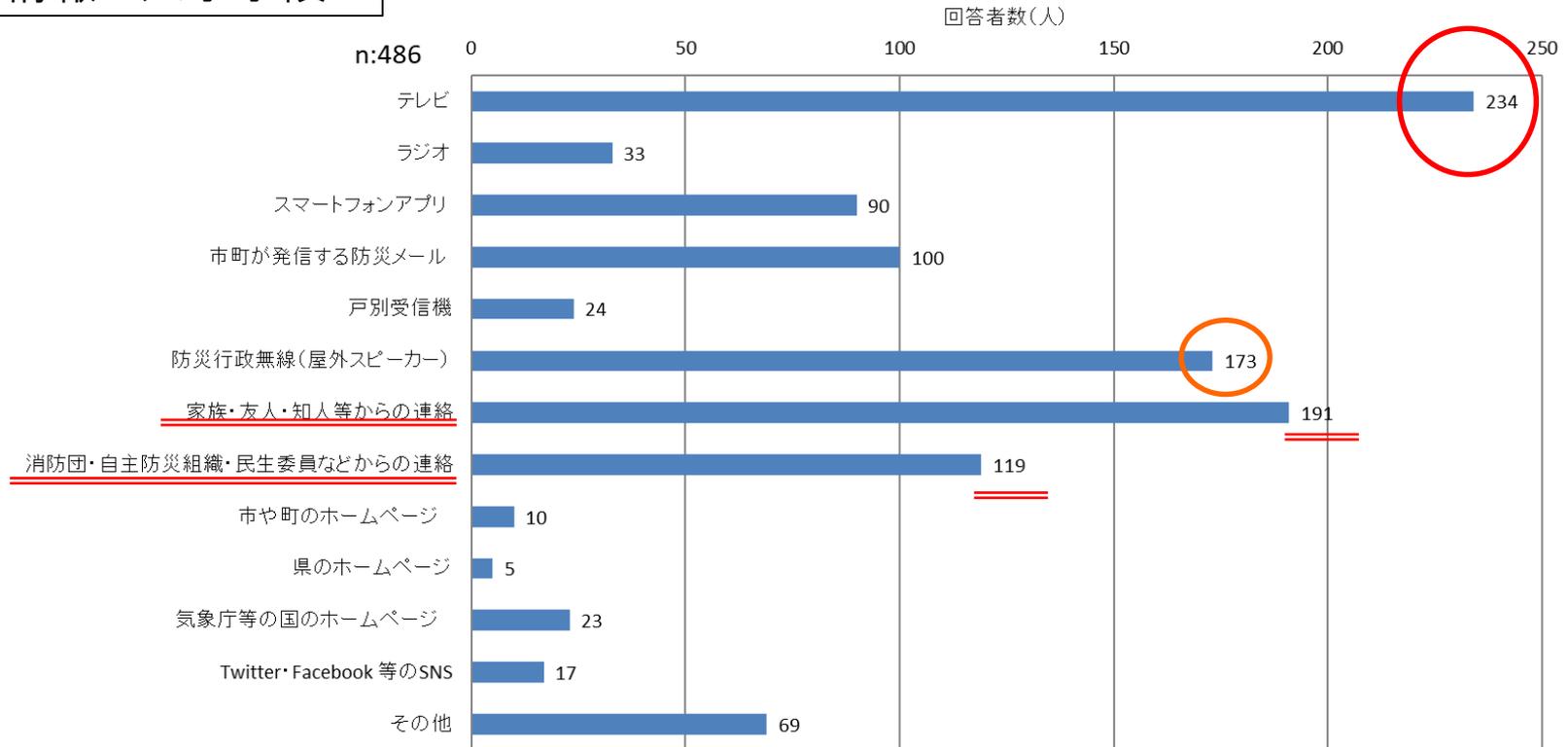


【市町毎の住民からの自由意見(抜粋)】

市町名	意見
今治市	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に避難勧告が出たことがなく、安全だと思った。 ・避難を勧められたが、車も水に浸かり、避難所に行く手段がなかった。
八幡浜市	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所の方が、自宅よりも危険と判断したから。 ・防災行政無線による放送があったかどうか雨音がひどく分からなかった。 ・住みはじめて30年間初めての出来事だったから。
大洲市	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの水害が起きるとは思わなかった。 ・周囲の浸水により避難できなかった。 ・問題ないと思っていたから、浸水してびっくりして2階へ避難した。
松野町	<ul style="list-style-type: none"> ・水が来るのが急激で避難する時間がなく孤立した。 ・川の氾濫状態が緊急を要する事態と認識できていなかった。

アンケート結果<情報の入手手段>

問10 情報の入手手段



■情報の入手手段としては「テレビ」が最多であった。

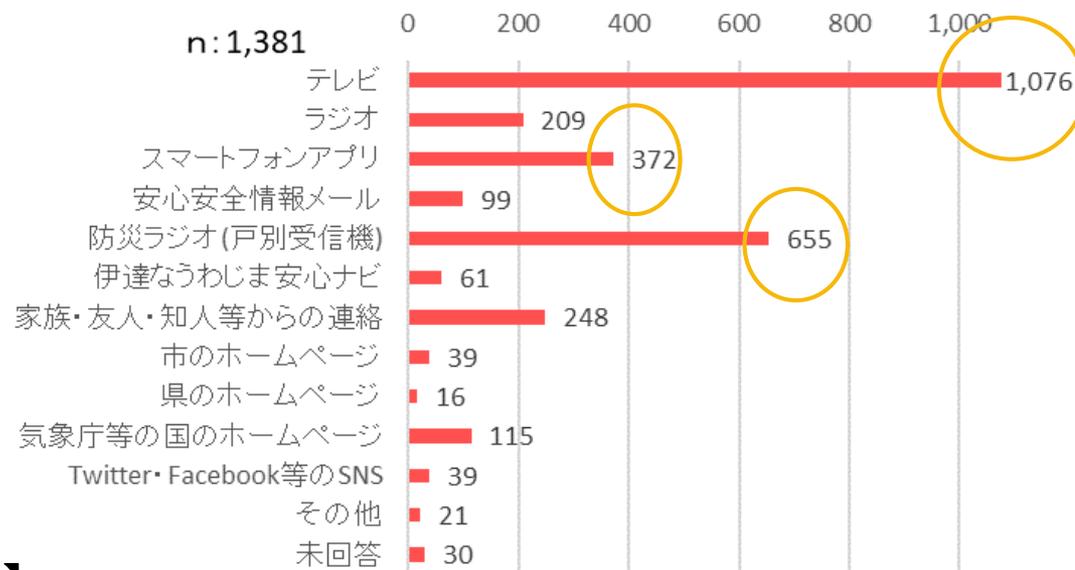
■友人・知人からの連絡や消防団等からの連絡で情報を入手した方も多い。

■行政が発する情報としては「防災行政無線(屋外スピーカー)」が最も使用された手段である。

➢住民側から主体的に情報を取りに行く必要があるインターネットサイト(HP等)の活用は少ないが、アプリや防災メール等の発信される情報についてはインターネットサイトに比べると活用されている。

アンケート結果＜情報の入手手段＞

(参考)宇和島市

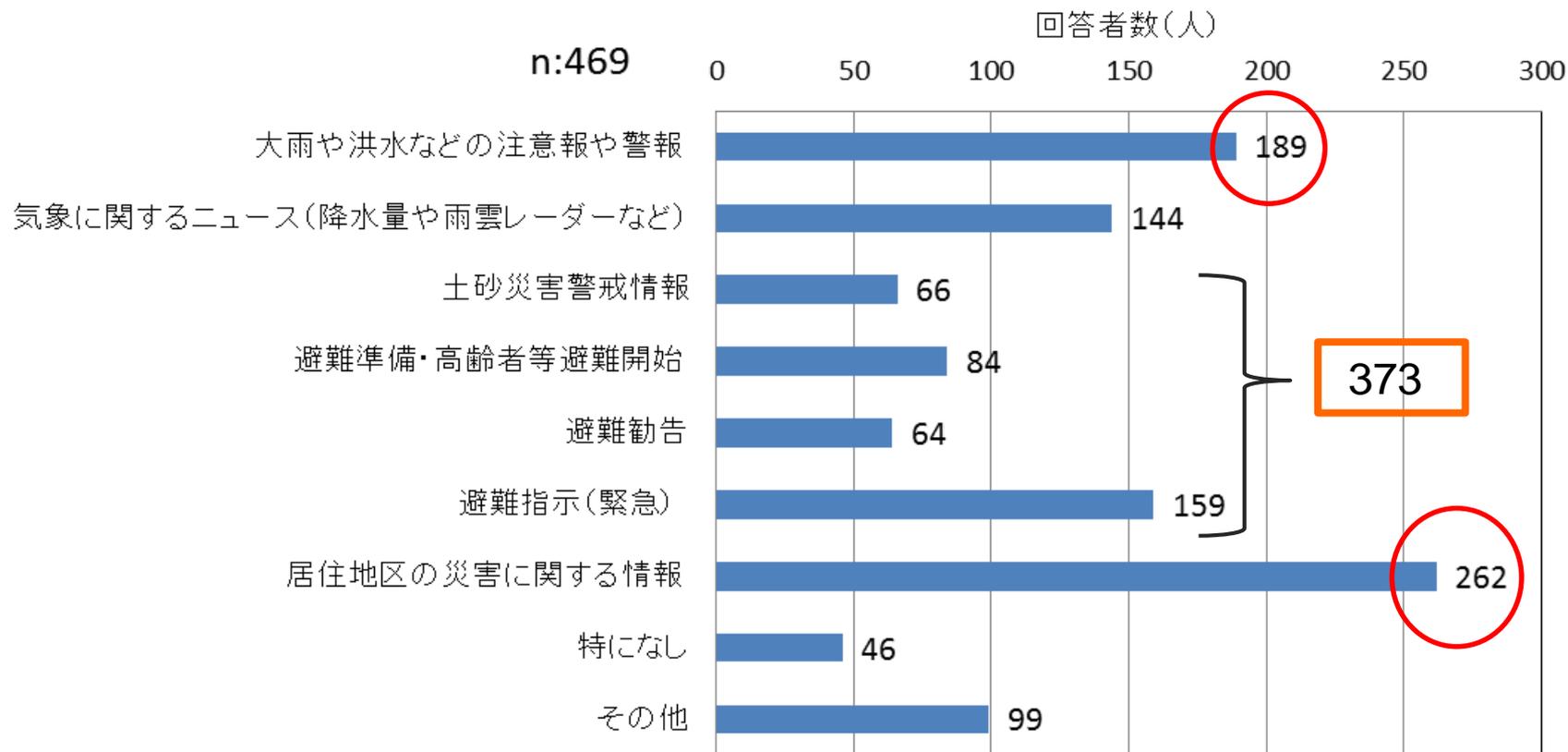


【市町毎の住民からの自由意見(抜粋)】

市町名	意見
今治市	・愛媛県防災メール
八幡浜市	・直接消防署員に聞いた。 ・市の防災行政無線の連絡。
大洲市	・区長さんや隣近所の方 ・国土交通省の川の防災情報ホームページ
松野町	・自分の目で確認。 ・川の水位から。
鬼北町	・消防団 ・近所の人

アンケート結果<災害時に必要とする情報>

問11 今回の豪雨災害時に欲しかった情報

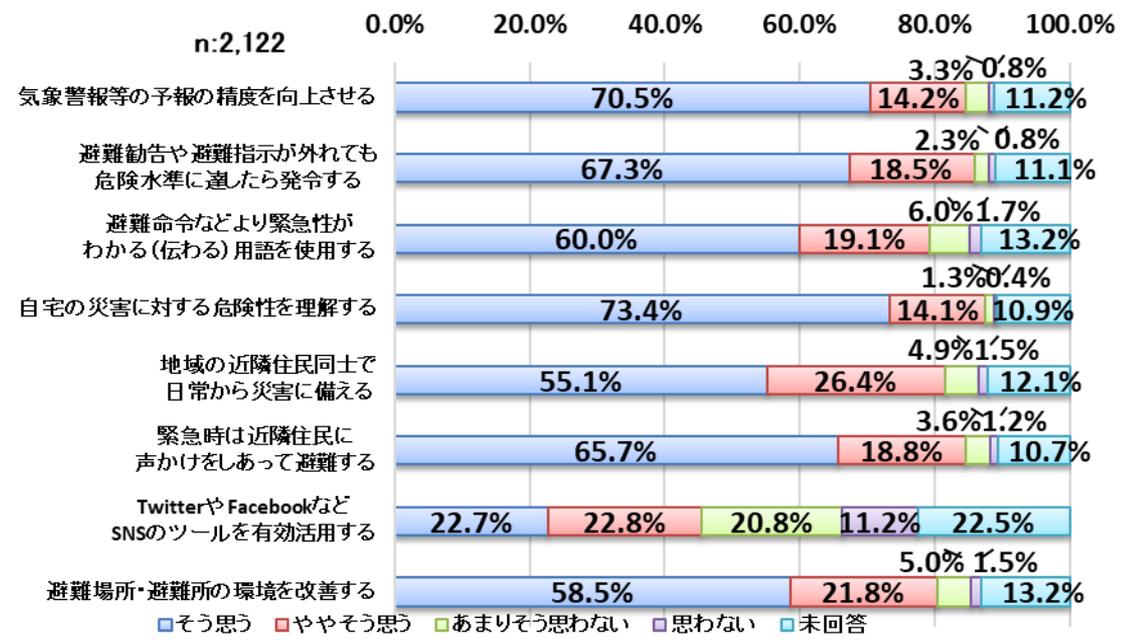


- 「避難指示(緊急)」など避難情報を必要と回答している方が最も多い。一方で避難行動の目安となる「避難勧告」のみで見ると必要と回答した方は少ない。
- 「居住地区の災害に関する情報」も必要とされていた。
- 「大雨や洪水などの注意報や警報」の気象情報についても必要としている方が多い。

アンケート結果＜災害時に必要とする情報＞

(参考)宇和島市

避難行動をとるために必要なこと

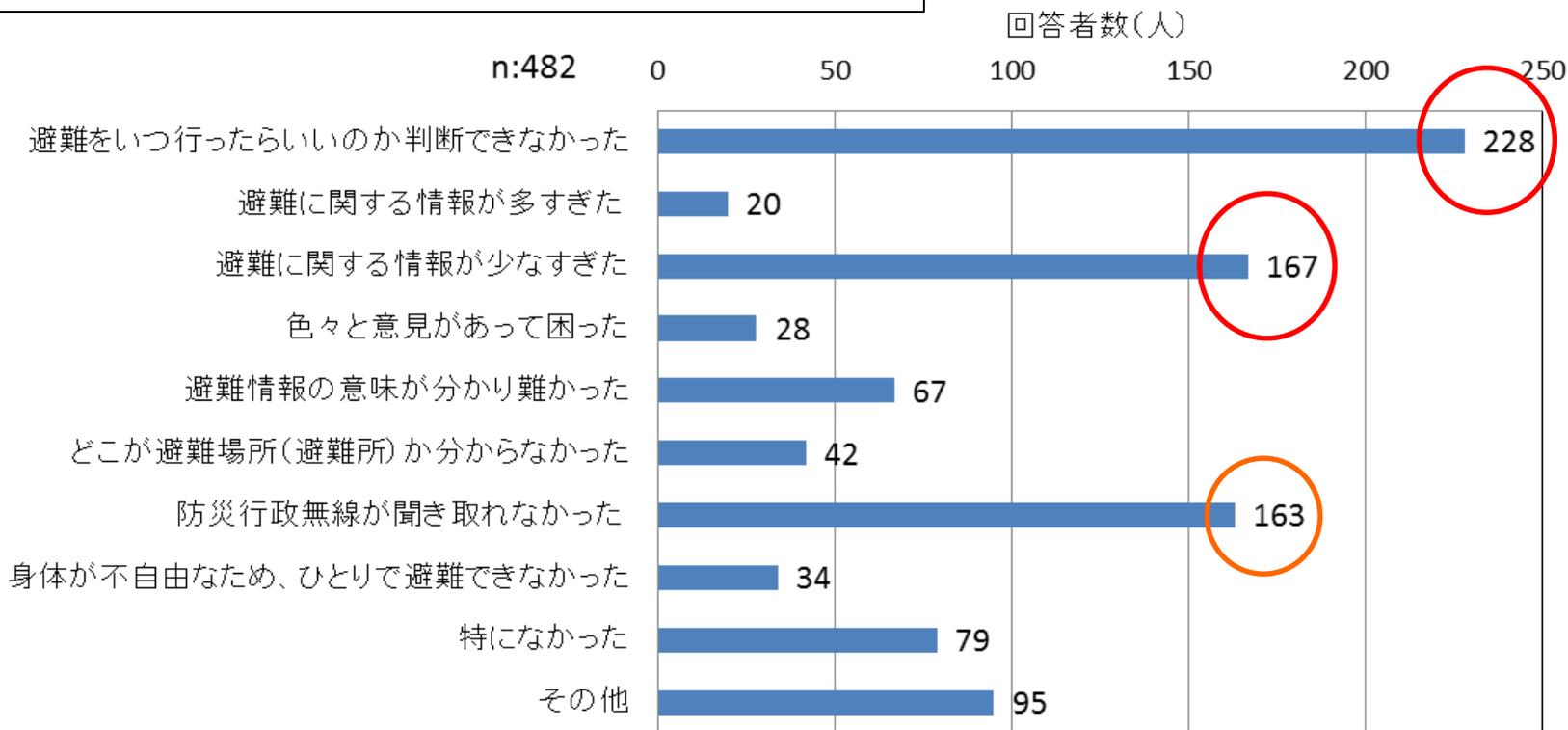


【市町毎の住民からの自由意見(抜粋)】

市町名	意見
今治市	・地域別降水量(連続雨量)
八幡浜市	・地域の河川の水位情報 ・避難勧告と指示の区別がつかなかった。もっと分かりやすい区別が欲しい。
大洲市	・河川の水位情報、ダム放流情報
松野町	・防災無線の放送
鬼北町	・どの情報も早め早めにほしい。

アンケート結果<避難にあたり困ったこと>

問12 避難の行動や避難情報に関して困ったこと



■「避難をいつ行ったらいいのかわからなかった」や「避難に関する情報が少なすぎた」という意見が多い。

➢ 避難を判断する情報が必要とされていたことが伺える。

■「防災行政無線が聞き取れなかった」という意見も多い。

➢ 情報の入手手段として防災行政無線が多かった一方で、聞き取れなかったという意見が多い実態がある。

アンケート結果＜避難にあたり困ったこと＞

問12 避難の行動や避難情報に関して困ったこと

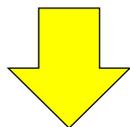
【市町毎の住民からの自由意見(抜粋)】

市町名	意見
今治市	・身体障がい者の避難方法
八幡浜市	・戸別放送受信装置による早めの避難情報が必要だと思った。 ・避難の緊急度合いをもっと分かりやすい区分にして欲しい。 ・雨音で放送が聞こえなかった。
大洲市	・足が悪い母がいるので避難が難しい。 ・避難所にペットと避難することを可としてほしい。 ・一人暮らしなので避難を判断する決断に困った。
松野町	・戸別受信機がないので防災行政無線が分からなかった。 ・タイムリーな情報がない。
鬼北町	・体の不自由な家族がいる。 ・避難場所も浸水していた。

<まとめ>

○避難行動を開始するタイミングとして、実際に浸水したり、土砂が流れ出たりと被害が起き始めてから避難する方が多い傾向にある。これは避難しなかった理由で「ここまでの水害が起きると思わなかった」という意見が多かったように水害等への危機意識が低かったことが一因であると推測できる。

○また、避難をいつ行ったらいいか判断できなかったという意見が多く、避難に関わる情報を入手できなかった、上手く活用できなかった方が多いと考えられる。



○避難に際しては、消防団や自主防災組織等の呼びかけが有効であり、平時から地域が一体となり防災意識を向上させていく必要がある。

○避難勧告の情報の重要性を認識していない住民が多く、避難勧告の時点で適切に避難させる必要がある。

○防災行政無線により情報を入手した方が多い一方で、豪雨の際は聞き取りづらかったという意見も多く、戸別受信機の整備や屋外スピーカーの性能向上を図るとともに、住民の方に切迫感が伝わる言葉で情報を発信していく必要がある。

○情報の入手手段としてテレビが多かったことから、メディアと連携し、きめ細かい情報を早め早めに発信していく必要がある。また、防災メールやアプリの利用者も増えていることから、このような媒体を活用した情報発信にも力を入れていく必要がある。